

令和 7 年度 第 2 回 東陽中学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和 7 年 7 月 1 日(火) 14時00分～15時 30 分
- 2 開催場所 東陽中学校会議室
- 3 出席委員 大橋 美義、飯塚 正師、小田 明美、中村 健二、山田 玲子、中津川 隆久
- 4 欠席委員 藤田 真弓
- 5 オブザーバー 袴田 唯之(南陽協働センター)
- 6 学 校 中野 敬之(校長)、神村 由貴子(教頭)、柏木 直人(教務主任)、前川 葉子(2年学年主任)、乾由佳(CS ディレクター)
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CS ディレクター 乾 由佳

9 議長の選出

司会から議長の選出について意見を求めたところ、大橋会長から小田副会長を推挙する旨の発言があり、全員意義なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) キャリア教育「職場体験」の推進について
- (2) 部活動の地域移行について

11 会議記録

司会の教頭から、委員総数 7 名のうち 6 名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1)キャリア教育「職場体験」の推進について(別紙参照)

議長の指示により、キャリア教育の一環として行われた「生き方」講話について、飯塚委員より報告があった。講師の元ジュビロ磐田の服部氏、山本氏ですが、服部氏とは同級生であり講話を依頼したところ、現在 U15 の監督をしていて、中学生に関わっていることもあり同じ年代への講話を快諾してくれた。内容としては、日頃家庭で親が子に話している内容や、学校で先生が生徒に話している内容と同様かもしれないが、第三者という立場、サッカーのトップレベルを経験した方からの話という事で子供達は目をキラキラと輝かせて、真剣に聞いていた。質問も時間いっぱい手を挙げてくれて、講話内容を自分の中に落とし込もうとしているのが伝わってきた。これから進路選択をする中で、夢の持ち方という話を聞いて、子供達がどう受け止めて、実践していくのか、とても楽しみになった。来年以降も継続していけたらと思っている。

2学年主任の前川から、別紙資料に基づきキャリア教育「職場体験」の推進について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・昨年度のアンケートで引き続き受入可能な所は学校から連絡を取ってもらう。行くのが大変ということだが、働くということはそういうことも含まれることを、子供達にも保護者にも理解してもらったかどうか。どんな業者で何件くらい新規受け入れ先が必要か。(飯塚委員)

- ・今学期中には昨年度体験させて頂いた企業さんから今年度も可能か否かの連絡をもらう予定なので、それ以降直接連絡を取り合えたらと思っている。(前川)
- ・具体的にどの辺りが行きにくかったのか。(飯塚委員)
- ・卸本町や弁天島のウォットなどと聞いている。(前川)
- ・絶対二日でないとダメなのか。(山田委員)
- ・絶対ではないが、その仕事について深く知る事が出来るのは二日がよいかなと考えている。(前川)
- ・昨年度は、体験前に講話、実際に体験、体験後にパワーポイントの講習会有り、自分達のやったことをまとめ、資料を作ったが、今年度も同じようにやるのが良いのではないかなと思う。(飯塚委員)
- ・まだ決まっていないが、体験前にマナー講座、体験後には新聞形式のまとめも考えている。(前川)
- ・現在の時点で、この場で新規事業所をあげるのは難しいと思う。(小田委員)
- ・R6年度は R6年 CS 委員の吉春さんにご紹介いただいているので、また依頼してはどうか。(飯塚委員)
- ・生徒の希望や人数割り等を考えた上で新規事業所について皆さんにご相談させていただきます。(前川)

(2)部活動の地域移行について(別紙参照)

議長の指示により、校長・教頭から、別紙資料に基づき説明があり、委員会からは以下の発言があった。

- ・はまクルに認定されないとダメなのか。現在、息子が所属している部活ではボランティアの方二人が見てくれているが、もしその二人が認定されなければ、見てもらえないということになるのか。お二人が説明してくれた内容をさくら連絡網等で保護者にも伝えて欲しい。(中村委員)
- ・地域クラブは無料かそれとも有料なのか。(山田委員)
- ・有料でクラブ毎に異なる予定。現在はボランティアだが、今後は謝礼を払うという形になる。(校長)
- ・はまクルに登録するのではあれば、同額にしたら良いのでは。(小田委員)
- ・沢山子供が入っているところはいいが、そうでないと運営も難しい。(校長)
- ・学校単位で決めてやっていくのが、そもそも無理ではないか。人数も集まるか分からないし、各学校で連絡を取り合っていくという仕組みづくりが難しいと思う。お金を取る時点でもはや部活ではない。(飯塚委員)
- ・運動部は技術力向上が主ではなく、生涯スポーツのような考え方で運営されることになる。(校長)
- ・休日の指導が認められなければ、中体連以外の大会にも出られない等、様々な矛盾点がある。(教頭)
- ・指導する側のモチベーションももてないし、子供達も戸惑うのでは。(中村委員)
- ・色々問題点があるようだが、入りたいけどお金がない子はどうしたらいいのか。自治体も変わっていくから、その都度引き継いで面倒見ていくのも難しい。(中津川委員)
- ・最終系は全然決まっていない、これは当分時間がかかると思う。今までの中体連などの歴史があり、それはきらないなど、元々矛盾がある。浜松市がもっときちんと決めないと。ただ、部活動はやった方が将来プラスになると思う。(会長)
- ・はまクルの認定基準は。(袴田オブザーバー)
- ・そこまではまだ我々には下りてきていない。(教頭)
- ・どこから発信するかは未定だが、指導してくれる方募集したら実際やってくれる方いるのか。(教頭)
- ・保障とか明確になってないと立候補する人はいないのでは。(飯塚委員)
- ・私は手を挙げる人いるのではないかなと思う。自発的にやろうとする人はいるが、はまクルになってくると話は変わると思う。(会長)
- ・例えば、健全育成会などで各自治会長さんにお話するのも一つだろうか。(教頭)
- ・それはやるべきだと思う。(会長)
- ・昔とは色々変わっているから、今の教育を理解した人が立候補してくるか分からない。それに、今は子供達も指導者を選択する時代。(飯塚委員)
- ・学校だと先生は選べないが、クラブチームだと技術力が高い人がいいなど、選ぶことができる。この地域だけでは成り立たないと思うので、この地域で一つ作るなど、方針を示してもらえると良い。(小田委員)

その他連絡事項

司会から、次回会議は 11 月 6(火)14時から2F 会議室で開催する旨の報告があった。